

玄海町における文献調査の状況

2025年4月25日

原子力発電環境整備機構

佐賀県玄海町でのこれまでの経緯

(1) 文献調査に至る主な経過

- 2024年4/15 : 町内 3 団体が議会に対し文献調査応募に向けた請願提出
4/26 : 町議会 4 月定例会で請願を採択
5/1 : 国から文献調査の申入れ
5/10 : 脇山玄海町長が文献調査受入れを表明
6/10 : 文献調査開始 (事業計画変更認可)
- 2025年4/8 : 玄海交流センター開所
4/17 : 第一回「対話を行う場」開催



(2) 地域対話の取組

- 寿都町及び神恵内村での「対話の場」の経験、教訓に留意し、玄海町の地域特性や地元の意向を十分尊重しながら、円滑な「対話を行う場」の設置に向けた関係箇所との調整・諸準備を実施
- 対話活動の拠点となる「玄海交流センター」の開所、第一回「対話を行う場」を開催
- 町内27地区長を定期的に訪問し、文献調査や「対話を行う場」について、情報提供を実施
- 地層処分に関心を有する地元団体等に対して説明会や視察見学会等を実施
- 佐賀県や唐津市、伊万里市等の周辺自治体・議会等に対して情報提供を行い、要請に応じて説明会等を実施

(参考) 玄海町の概況

人口：4,908人(R6.3.31現在)
面積：約36km²
財政力指数：1.2(令和4年度)
原子力発電所立地自治体

(3) 文献調査の状況

- 玄海町やその周辺地域に関する地質図や学術論文等の必要な文献・データを収集し情報を整理中
- 主な情報（火山の分布、炭田の分布など）を把握し、評価の具体的な方針を検討中

玄海交流センターの開所

- 2025年4月8日、地域での対話活動の拠点となる「玄海交流センター」を開所。
- 玄海交流センターには、所長をはじめNUMO職員計5名が常駐し、処分事業や文献調査の進捗状況を分かりやすく説明するなど、地元根付いた「顔の見えるコミュニケーション」を継続的に実施。
- センター内には模型やパネルなどの広報スペースも設けており、地域の皆さまに気軽に来所いただく交流の場としても活用。

【開所式(4/8)の様子】

- ・ 開所式には、脇山玄海町長をはじめ、町議会や国の関係者7名が来賓として参列し、マスコミ14社21名が取材のため来所。
- ・ 山口理事長から「玄海町や周辺自治体にお住まいの皆さまからのご意見やご質問に真摯にお答えしていく。交流センターを拠点に地域の皆さまとの関係を一層深めてきたい」と挨拶。
- ・ 脇山玄海町長から「文献調査の受け入れ自治体を広げるよう、一生懸命努力してほしい」とご挨拶。



NUMO玄海交流センター（外観）



センター内装と展示物

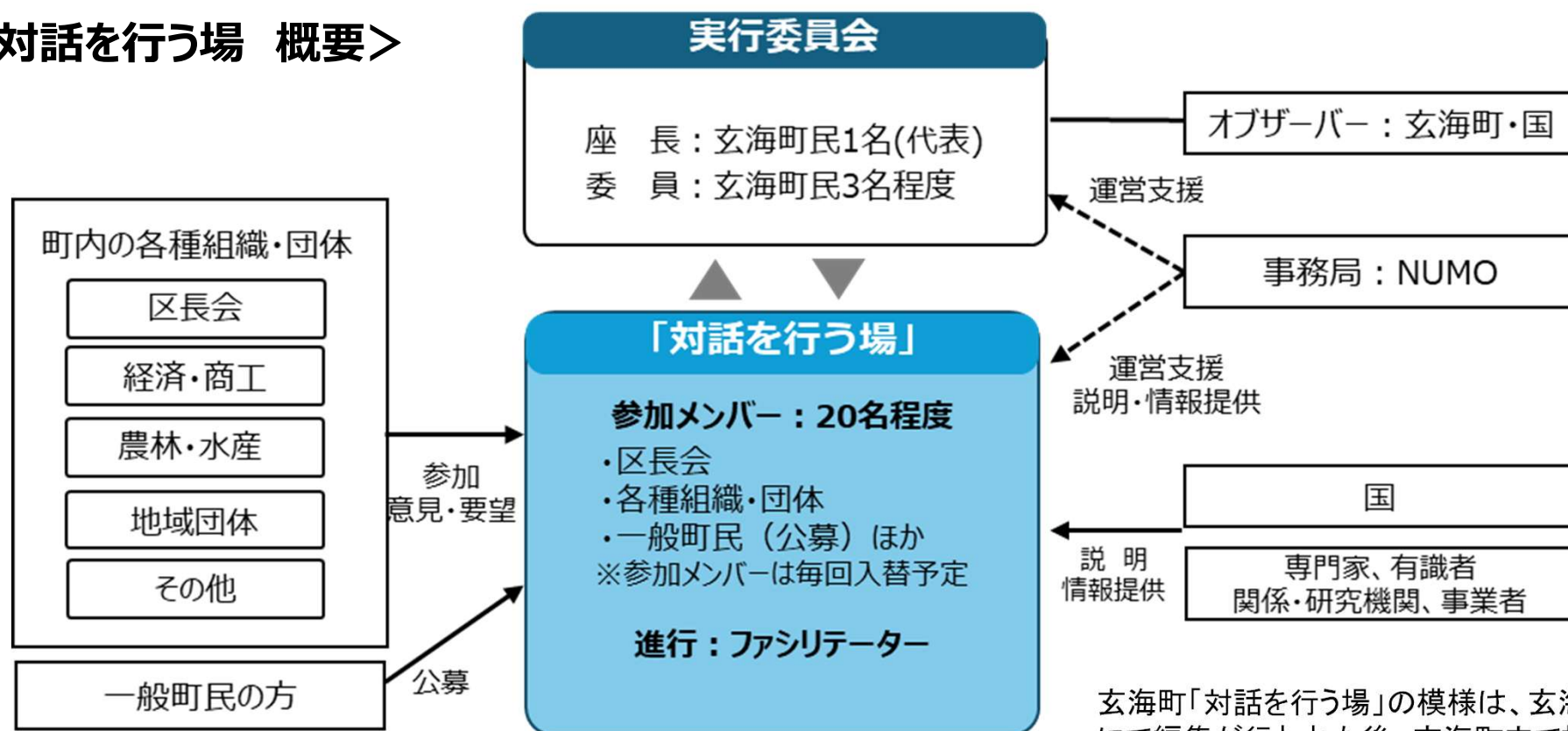


4/8 開所式

玄海町「対話を行う場」の設置・開催に向けた取組

- 2024年6月以降、国の基本方針や寿都町及び神恵内村での「対話の場」の経験、教訓に留意しつつ、玄海町の地域特性や地元の意向を十分尊重しながら、準備を進めてきた。
- 2025年1月、町民4名で構成される「実行委員会」が立ち上がり、実行委員会の指示に基づきNUMOは、場の運営に係る事務を補助（開催案内、各種資料提供、会議録の作成等）。今後、NUMOは玄海町や実行委員会、ファシリテーター等と連携しながら運営を支援していくとともに、最終処分事業の必要性、安全確保の考え方を機構から継続的に説明し、疑問や不安に丁寧にお答えしていく。
- また、「対話を行う場」に限らず、地域からのご要請に基づいて、様々な対話の形を後押ししていく。

＜対話を行う場 概要＞



玄海町「対話を行う場」の様子は、玄海ケーブルテレビにて編集が行われた後、玄海町内で放映される予定

玄海町「対話を行う場」の設計における留意点

- 先行する北海道 2 町村における地域対話で得られた知見・教訓を活かして、次のとおり玄海町「対話を行う場」づくりを検討・整理。

項目	留意点・教訓	玄海町「対話を行う場」
検討経緯	設置経緯の納得感	留意事項ひな型案を元に自治体の方針出し
運営主体	運営の中立性	町民有志「実行委員会」による運営
目的	合意形成の場ではない	賛否を問わず文献調査・地層処分を勉強する場
テーマ・議題	決定の透明性	実行委員会で検討・決定
会則・ルール	中身の納得感	実行委員会で検討・決定
進行役	中立的な立場による進行	進行役を実行委員会が任命
参加者	偏りが無い、広がり	20名程度、毎回入替、一般町民公募
情報公開	議事・資料の公開、アクセス	後日HP公開、動画は議論部分は非公開
傍聴	場の合意に基づくルール	実施しない
情報提供	バランスの確保	今後、慎重意見等の扱いも検討していく
町民周知	広がり、認知	お知らせの作成と広報誌等での周知、交流C職員による参加者フォローアップ、CATVでの町民周知
NUMOの関与	関与のあり方	実行委員会の事務局のみ

第一回「対話を行う場」の開催

- **2025年4月17日**、町民4名で構成される「実行委員会」主催による**第一回「対話を行う場」を開催**。
- **町内の各種団体から14名、一般公募による町民4名の計18名**が参加。
- 今回の「対話を行う場」の様様（一部非公開）は、後日、**玄海ケーブルテレビにて町内に放送**するとともに、**町内全戸に結果周知資料の配布**を予定。

（1）議事概要

- ① 開会挨拶（実行委員会委員長・玄海町長・エネ庁・進行役）
 - ② NUMOから文献調査について説明
 - ③ グループ討議（4テーブルに分かれ参加者による意見交換）
- ※ 閉会后、マスコミに対して、進行役が今回の振り返りを行い、関係者による取材対応を実施

（2）参加者からの主な意見・質問

- ・ 町内に限った文献調査に2年もかかるのか。海域まで調査するのか
 - ・ 処分場の地上部には住めないのか。移転しなければならないのか
 - ・ 風評被害が発生しないようにしてほしい
 - ・ 工期は何年ぐらいになるのか。どのくらいの雇用が発生するのか
- ※ 時間の関係上、お答えできなかった質問もあったため、
後日、結果周知資料等で回答予定

（3）第二回「対話を行う場」

- 今回の参加者アンケートや町内への結果周知時の反応等を踏まえた振り返りを行い、次回の「対話を行う場」に向けた諸準備を進める
- 第二回「対話を行う場」の実施内容・時期は、今回の振り返りや一般公募期間等を見通しながら、実行委員会にて決定する



4/17 「対話を行う場」